

は し が き

1991年6月に発行した『海外派遣者ハンドブック アジア NIES 編（香港・台湾・韓国）』は、アジア NIES 諸国の中から香港・台湾・韓国の3カ国を取り上げ、現地日系企業の職場やコミュニティで実際に起きた事件、ならびに失敗例など具体的な事例および対応ポイントなどをまとめたものである。これまで版を重ねてきたが、3カ国のうち「香港」についてはすでに中国に返還されたことを受け、『海外派遣者ハンドブック 中国実用ノウハウ事例集 上・下巻』（2010年）発行の際に関連の事例をこちらに移し替えた。それに伴い、本書では「台湾・韓国」の2カ国を取り上げ、事例のみを抜粋して編集し直した。

また、“NIES”（Newly Industrializing Economies = 新興工業経済地域）という言葉も今では聞かれなくなって久しいため、「アジア NIES 編」というタイトルを外し、新たに『海外派遣者ハンドブック 台湾・韓国編』という名称に変更した。

台湾・韓国両国ともそれぞれに民族、宗教、歴史、文化などの背景が異なり、職場や日常生活において異なった対応が必要となる場合もあるが、本書では主として2カ国に共通の問題を取り上げ、両国の特殊事情については、ポイント欄に注意事項として記載した。

労働慣行、生活習慣、地域社会との関係など海外派遣者が現地で対応を迫られる問題は多々あるが、こうした問題は上記2カ国の労働・社会習慣と日本のそれとの相違からくるものが多く、「郷に入っては郷に従え」式の柔軟な対応が要求されるようである。新しく同地域へ赴任する派遣者のための手引として、本書を活用していただければ幸いである。

また、この機会に、91年当時のハンドブック作成にご尽力いただいた作成委員会の主査・副主査・委員のメンバー（名簿は後掲）、および本事業の委託元であった日本労働研究機構 JIL（現、労働政策研究・研修機構 JILPT）に対し、心から感謝を申し上げる次第である。

2012年4月

一般社団法人 日本在外企業協会

目 次

はしがき

第1章 事例編「実践に役立つ29の事例と対応のポイント」

1. 採用	2
事例1 採用前に十分な理解を（明確な採用条件）	2
事例2 ベテランが突然軍務に（兵役義務）	4
2. 離職・解雇	6
事例3 検算金（退職金対策）	6
3. 部下の評価	8
事例4 給与はみせあうもの（部下評価ノウハウ）	8
事例5 日本人の査定は厳しい!?（評価方法のノウハウ）	10
事例6 処遇は難しい（評価に関する苦情への対応）	12
事例7 退社社員へのサービス!?（労働移動を前提にした人事管理）	14
4. 部下の育成・昇進・教育	16
事例8 日本への研修（現地スタッフの育成）	16
事例9 配転は困難（キャリア教育）	18
事例10 順番は大切（年功序列）	20
事例11 前任者の方が楽だった!?（現地スタッフとのコミュニケーション）	22
5. 部下の使い方	24
事例12 チェックされるのはいや（指示の注意点）	24
事例13 徹底した個人主義（セクショナリズムへの対応）	26
事例14 現場実習をいやがる大卒技術者（エリートと人材育成）	28
事例15 面子（メンツ）（部下の叱り方）	30
事例16 高いプライド（技術移転とスタッフ育成）	32
事例17 マネジャーのベネフィット（処遇の注意）	34
6. 組織と仕事	36
事例18 品質問題（品質管理）	36
事例19 何となくわかった（部下との意思疎通）	38
事例20 台湾時間は大学時間?（現地習慣の心得）	40
事例21 取り引きは人情優先（取り引き上の注意）	42

7. その他の職場問題	44
事例22 日本飯屋が増えると……（従業員とのコミュニケーション）	44
8. 経営	46
事例23 短期指向（経営スタイルの相違）	46
事例24 業務提携は婚姻関係!?（技術協力）	48
9. その他	50
事例25 カラオケはほどほどに（地元社会への融和）	50
事例26 歴史の最低限の常識を（地元社会への融和）	52
事例27 チップの出し方には注意が必要（地元習慣の心得）	54
事例28 ぬかりなくやってくれ!!（日本人出向者の問題）	56
事例29 歓迎されぬ出向者!?（日本人出向者の問題）	58

第2章 資料編

（資料1）台湾・韓国 略史年表	62
（資料2）「海外派遣者ハンドブック」作成委員会名簿	64
（資料3）日外協『海外派遣者ハンドブック』エリア別一覧	65